

教科書採択審議会 審議会資料（国語）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（４者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定委員長による説明。
 - ・国語科の目標及び学習指導要領の要点並びに教科独自観点の設定についての説明
 - ・選定委員による調査・研究の内容についての説明
- ② 選定委員会の調査・研究の結果による推薦。光村図書を第１位、三省堂を第２位に推薦。
- ③ 審議委員の質疑と、選定委員長退出後の審議。
- ④ 審議の結果、中学校国語の第１位を光村図書、第２位を三省堂とする。

判断根拠

- ① 選定委員会の「☆（特に優れている）」の数は、「光村図書」が第１位、「三省堂」が第２位である。
- ② 選定委員長の説明。学習の見通しや他教科等との関連付け、語彙力や表現力の向上につながる工夫など、特に優れている特長が「光村図書」にある。
- ③ 校長・教職員アンケート結果は、「光村図書」が第１位、「三省堂」が第２位であり、「光村図書」の選択数は他の３者よりも多い。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
光村図書	三省堂
理 由	理 由
○巻頭の「学習の見通しをもとう」で１年間の学習の見通しをもたせ、「主体的な学びのために」で教科書の機能を生徒に伝え、各教材の「学びへの扉」で自分の考えをまとめる学習を取り入れるなど、主体的な学習の展開を促す工夫がある。 ○応用問題「国語の力試し」で、生徒自身に「何ができたか」「課題は何か」を確認させ、学習の調整につなげる工夫がある。 ○「言の葉ポケット」や巻末の「語彙ブック」によって、語彙力や表現力の向上につなげる工夫がある。	○自分の考えをまとめる学習を繰り返すことで思考力・判断力・表現力の向上を図り、「読み方を学ぼう」で様々な文章を読むための視点を示し、情報を活用する力を高める工夫がある。 ○巻頭で身に付けたい力を示し、「学びの道しるべ」で主体的な学習の展開を促す工夫がある。 ○単元内に具体的な言語活動を設定し、国語科で身に付けるべき資質・能力の定着を図る工夫がある。

教科書採択審議会 審議会資料（書写）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（４者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定委員長による説明。
 - ・国語科における書写の目標及び学習指導要領の位置付け並びに教科独自観点の設定についての説明。
 - ・選定委員による調査・研究の内容についての説明。
- ② 選定委員会の調査・研究の結果による推薦。教育出版を第１位、光村図書を第２位に推薦。
- ③ 審議委員の質疑と、選定委員長退出後の審議。
- ④ 審議の結果、中学校書写の第１位を教育出版、第２位を光村図書とする。

判断根拠

- ① 選定委員会の「☆（特に優れている）」の数は、「教育出版」が第１位、「光村図書」が第２位である。
- ② 学習の流れがしっかり示されており、教師の授業のしやすさや生徒自身で学習を進められる。
- ③ 校長・教職員アンケート結果は、「教育出版」が第１位、「光村図書」が第２位である。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
教育出版	光村図書
理 由	理 由
○学習の進め方が統一されており、「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」で学習過程を示すことで、生徒が見通しを持って主体的に学習に取り組むよう工夫されている。 ○硬筆から毛筆へと学習をつなげ、単元の終わりに身に付ける技能が確認できる構成になっている。日常での活用を意識し、硬筆の基礎的な技能が定着するよう工夫されている。 ○見開きページによって毛筆の学習の流れをつかみやすくし、字形やバランスの要点を理解しやすいよう工夫されている。	○「学びの力ギ」で学習の要点をわかりやすくまとめ、別冊で硬筆の課題を示すなど、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することができるよう工夫されている。 ○別冊「書写ブック」により、硬筆の基礎的な技能が定着するよう工夫されている。 ○解説の文章が発達段階に応じた平易なものになっており、重要な事項は大きめのフォントを使用するなど、認知しやすさを重視している。

教科書採択審議会 審議会資料（地理）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（４者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 検定済みの教科書（４者）について、選定委員が重点を置いた「豊かな人間性の育成を図るものとなっているか」「確かな学力の育成を図るものとなっているか」「生徒も教師も使いやすい内容となっているか」という３つの観点を審議の視点とした。
- ② 選定委員の評価の妥当性を、４者の内容を比較しながら確認し、単元の課題を複数例示することが生徒にとって、どのような効果があるのか、社会的な見方・考え方を働かせる工夫が教科書会社によってどのように異なるのか、などに焦点を当て審議を進めた。

判断根拠

- ① 選定資料の評価を見ると、東京書籍が「☆」「◎」の数が多い。
- ② 校長・教職員アンケートでは、いずれも東京書籍が上位評価で意見が一致している。
- ③ 生徒が単元の課題解決に向けて、発達段階に応じて追究できるようにしている。
- ④ 個別最適な学びや協働的な学びの充実を図るために、QRコードからワークシートや確認小テストへのリンクが貼られるなどの工夫がされており、資料も豊富で、探究的な活動ツールもある。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
東京書籍	帝国書院
理 由	理 由
○選定資料の「☆」「◎」の評価が多いことの妥当性が認められる。 ○校長・教職員アンケートでは、いずれも上位評価で意見が一致している。 ○単元の問いや学習課題を追究する視点が複数提示され、発達段階に応じた学習ができる構成である。 ○生徒の使いやすさ、見やすさ、教師の指導しやすさの観点の評価がすべて「◎」である。	○選定資料の「◎」の評価が多いことの妥当性が認められる。 ○校長・教職員アンケートでは、いずれも上位評価で意見が一致している。 ○地理学習に必要な調べまとめる技能を習得できるように工夫されている点が優れている。 ○我が国の国土に対する愛情や多様な生活文化を尊重する態度の観点の評価が「◎」と高い。

教科書採択審議会 審議会資料（地図）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（２者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 検定済みの教科書（２者）について、選定委員が重点を置いた「豊かな人間性の育成を図るものとなっているか」「確かな学力の育成を図るものとなっているか」「生徒も教師も使いやすい内容となっているか」という３つの観点を審議の視点とした。
② 選定委員の評価の妥当性を、２者の内容を比較しながら確認し、生徒たちにとって見やすいものとなっているのか、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図る工夫がされているかなどに焦点を当て、審議を進めた。

判断根拠

- ① 選定資料の評価を見ると、帝国書院が「☆」の数が多い。
② 校長・教職員アンケートでは、いずれも帝国書院が上位評価で意見が一致している。
③ 帝国書院は、QRコードの内容が精選されており、小学校の振り返りクイズや動画などとリンク集がつながっていて、多様な学びができる。
④ 地図帳として、情報量が多く、他教科にも活用できるような工夫をしている。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
帝国書院	東京書籍
理 由	理 由
○選定資料の「☆」の評価が多いことの妥当性が認められる。 ○校長・教職員アンケートでは、いずれも上位評価で意見が一致している。 ○地図の色がはっきりしていて、レイアウトもよく、見やすい。 ○総ページ数が多い分、統計資料・写真・図版などの情報量が多く、他教科にも活用できるような工夫をしている。 ○長崎に関連する内容が豊富である。 ○社会的な見方・考え方を働かせる面で優れている。	○QRコードの数豊富で、興味をもったところを詳しく学ぶことができる。 ○主題図（特定のテーマについて表現する地図）が詳しく示されており、ポイントがわかりやすい。また、地図を深く読むための工夫をしている。 ○地理だけでなく、社会科全般で活用できるうえ、全国的に修学旅行に人気の８地域の記載がある。 ○教科書と関連した資料が多い。

教科書採択審議会 審議会資料（社会科歴史的分野）

審議材料

- (1) 検定済み教科用図書（8者） (2) 選定委員長の報告及び質疑応答 (3) 選定資料（選定委員会作成）
(4) 調査委員会資料（調査委員会作成） (5) 校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 検定済みの教科書（8者）について、「歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されているか。」「生徒自身が設定した学習課題によって学びを深めることができるよう工夫されているか。」「我が国の歴史および郷土長崎に対する愛情や国際協調の精神を養うことができるよう工夫されているか。」という3つの観点を重視した選定結果について説明。
- ② 選定委員会の評価の妥当性について、内容を比較しながら確認した。上位3者はいずれも優れているものと評価されていたが、2位と3位の教科書の推薦順位について、事前資料の評価が僅差だったため、このままの推薦順位としてよいか審議を重ねた。
- ③ 国家によって見解や認識が違ふ歴史的事象についてどのような比較検討がなされたのか確認した。
- ④ 以上の審議をふまえ、審議会として、推薦順位を決定した。

判断根拠

- ① 選定資料①②において、東京書籍が「☆」の数が圧倒的に多い。
- ② 校長・教職員アンケートではいずれも東京書籍が上位評価で意見が一致している。
- ③ 「郷土長崎」に関する資料が豊富に扱われている。
- ④ QRコードの数や課題設定の数が多く、個別最適な学びや協働的な学びを实践するうえで、適している

審議結果

推薦順位 1位	推薦順位 2位
東京書籍	日本文教出版
理 由	理 由
○選定資料の「☆」評価が多いことの妥当性が認められる。 ○生徒が主体的に学び、知識や技能を身に付けるうえで優れた内容構成である。 ○資料やQRコードの数の豊富さから、個別最適な学びや協働的な学びを实践するうえで適している ○郷土長崎に関する記載や情報量が豊富である。	○選定資料の「☆」評価が多いことの妥当性が認められる。 ○QRコードや写真、イラスト等の資料が多い。 ○現代の日本と世界の単元が充実している。 ○まとめと振り返りなど、思考力・判断力・表現力を身に付ける工夫に優れている。 ○郷土長崎に関する記載や情報量が豊富である。

教科書採択審議会 審議会資料（社会科 公民的分野）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（６者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 検定済みの教科書（６者）について、「長崎のまちを愛し、未来を担う子どもたちの育成」のためにどのような教科書が良いか、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための手立てが明確な教科書はどれか、という観点を重視し、選定委員による評価について説明。
- ② 選定委員会の評価の妥当性を、特に評価が高かった２者の内容を比較しながら確認し、選定委員が高く評価している観点多いものを推薦順位の上位とした。
- ③ ２位と３位の教科書の推薦順位について、事前資料の評価が僅差だったため、丁寧に審議を行った。

判断根拠

- ① 選定資料①②において、東京書籍が「◎」の数が圧倒的に多い。
- ② 校長・教職員アンケートではいずれも東京書籍が上位評価で意見が一致している。
- ③ 主権者教育に関する教材が充実している。
- ④ 郷土長崎に関する記載が充実している。
- ⑤ 確かな学力の定着を図る上で多くの工夫がなされている。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
東京書籍	帝国書院
理 由	理 由
○選定資料の「☆」評価が多いことの妥当性が認められる。 ○生徒が主体的に学んだり、見通しを持って学んだりできるよう工夫されている。 ○主権者教育に関わる教材が充実している。 ○用語の解説が図式化され、確かな学力の定着が期待される ○QR コードから得られる教材が充実している。	○思考力・判断力・表現力、対話力を高める工夫がある。 ○単元末に持続可能な社会の実現のための支援策を自分事として提案させる活動など工夫がなされている。

教科書採択審議会 審議会資料（ 数学 ）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（７者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５） 校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定において重視した３つの視点（選定委員長より）
「主体的・対話的で深い学び」の実現 数学と日常生活・他教科との関連 「個別最適な学び」の実現
② ３つの視点を基に共通観点、教科独自観点で評価を行い次の２者（啓林館、東京書籍）が特に優れていると判断（選定委員長より）
③ ２者の具体的な違いについての確認（質疑応答を通して）
両者ともICT コンテンツによって「個別最適な学び」が実現でき、また、家庭学習の習慣化を図ることができるが、例の示し方や補充問題の充実などで、啓林館のほうが、より優れていると判断。

判断根拠

- ① 数学と日常生活や他教科との関わりが実感でき、数学を学ぶ有用性を感じることができる。
② 自ら学び、自ら考え、判断して主体的に行動できる「確かな学力」を身につけるために、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる場面設定がある。
③ 生徒が主体的に学ぶための学び直しの機会の提供、家庭学習の習慣化など「個別最適な学び」の実現を図る工夫がある。
④ 生徒の学習の補助をするICT コンテンツが充実している
２者とも、こうした点で優れているが、より啓林館が優れている。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
啓林館	東京書籍
理 由	理 由
○「例」や「例題」の解説動画があり、家庭で学び直しや予習ができるなど、生徒一人ひとりの実態にあった「個別最適な学び」が実現できるように工夫されている。 ○数学と日常の関わりや他教科との関連を実感できる場面や題材を取り上げることで、生徒が数学を学ぶ必要性や意義を実感し、主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○すでに小学校では自由進度学習など個別最適な学びへの取組が始まっている。そうした点で、小学校と中学校の学びの接続もスムーズである。	○必ず習得すべき問題や基礎的な問題を設定するなど、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるように工夫されている。 ○自らの学習状況を把握し、自己調整をしながら学びを進めるなど主体的に学習に取り組むことができるように工夫されている。 ○内容のまとまりごとに課題の解決過程を振り返ることができ、学び直しができるように工夫されている。

教科書採択審議会 審議会資料（理科）

審議材料

- (1) 検定済み教科用図書（5者） (2) 選定委員長の報告及び質疑応答 (3) 選定資料（選定委員会作成）
 (4) 調査委員会資料（調査委員会作成） (5) 校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定資料①②について、特に優れている（☆）、優れている（◎）と評価した根拠を中心に選定委員長から説明。
 学習指導要領の目標の達成・「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実・生徒教師にとっての使いやすさ
- ② 選定委員が推薦する上位2者について、その違いを審議。
 デジタルコンテンツ・QRコードの取扱、単元構成（学習者の視点を「広がる」・「焦点化する」展開や学習の順序）、郷土に関する内容
- ③ 推薦順位の決定とその根拠を確認。

判断根拠

- ① 選定資料において「☆（特に優れている）」「◎（優れている）」とする数が多いもの
- ② 科学的に探究する学習展開の工夫や安全面への配慮が十分になされているもの
- ③ 「個別最適な学び」「協働的な学び」が充実するような工夫がなされているもの
- ④ 生徒、教員にとって使いやすい（指導しやすい）教科書（版や文字の大きさ、配置・構成等）

審議結果

推薦順位 1位	推薦順位 2位
東京書籍	大日本図書
理 由	理 由
○身近な題材の取扱いや主体的に学習に取り組む態度を養う工夫など、11観点中6つが「☆」、5つが◎（5者中1位）と評価が高く、その妥当性も認められる。 ○今日的課題の取扱いが豊富で、学習指導要領解説の一部改訂の内容（脱炭素等）も題材として取り扱っている。 ○科学的に探究する学習展開の工夫が充実していることに加え、生徒の学び方に適した単元内の構成（配置）となっている。 例：1年（粒子領域）金属→有機・無機→物質（学習者の視点の広がり） ○授業1時間分が見開き1ページに配置されており、ページを行き来することがない。作業を制限することで、実験時の安全面への配慮につながる。	○シンプルで見やすい。 ○探究-まとめ-単元末問題-読解力問題の流れで、思考力・判断力・表現力が育成されるよう工夫されている。 ○B5版の使いやすさや単元内の構成について、教員からの肯定的意見が多い。 ○学習指導要領解説の一部改訂の内容（脱炭素等）を題材として取り扱ってはいるが、その他の今日的課題の取扱いは豊富である。

教科書採択審議会 審議会資料（音楽・一般）

審議材料

- (1) 検定済み教科用図書（2者）
- (2) 選定委員長の報告及び質疑応答
- (3) 選定資料（選定委員会作成）
- (4) 調査委員会資料（調査委員会作成）
- (5) 校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定委員長の説明。選定を進めていく上で、次の3点を共通理解。
 - ・『第4次長崎市教育振興基本計画』に基づく長崎市の方針
 - ・長崎市でここ数年、教科書会社の変更がされていないことによる、現状維持バイアスを意識して慎重に選定。
 - ・「音楽活動の楽しさ」「他者との協働」「生活や社会における音や音楽、我が国や郷土の伝統音楽」を意識した教科独自観点。
- ② 選定委員長への質疑。
- ③ 選定委員長退出後、長崎市の学力向上に資するのはどの教科書か、という視点を中心に審議。
- ④ 審議会として、教育芸術を第1位、教育出版を第2位とすることを決定。

判断根拠

- ① 「一人1台端末を用いたICT機器の活用」という観点から、QRコードで自発的に情報を探したり、創作ツールで作曲したり、曲名から気になった音源を探してメロディを口ずさむことができるよう工夫されている。
- ② 全ての生徒にとって使いやすい教科書という観点から、触ってみたい、開いてみたいと思える表紙である、1ページの内容が焦点化されていて情報をつかみやすい、音楽の見方・考え方のひとつである諸要素と楽曲の結びつきを把握しやすいなどの工夫がなされている。
- ③ 音楽文化の継承や発展につなげるために、学習する内容と社会や身近な生活が結びつけやすい教科書である。
- 以上の3点を主な判断根拠とした。

審議結果

推薦順位 1位	推薦順位 2位
教育芸術	教育出版
理 由	理 由
○☆、◎の数が教育芸術の方が多い。 ○教職員のアンケート結果と一致する。 ○諸要素と楽曲との結びつきや身近な社会との結びつきなど、学習指導要領において重視されている点に関する工夫が充実している。 ○生活の中において身近な音楽に触れる部分で優れている ○他者と協働することができ、QRコードもとても充実している。	○挿絵の人物のつぶやきで「個別最適な学び」を促す工夫がある。 ○歌詞と挿絵の重なる部分では、背景の配色や模様が影響し、一部読み取りづらいものがある。 ○教育芸術社と比較すると、QRコードが30程度と少ない。 ○教育芸術社と比較すると、「協働的な学び」が意識しづらい。

教科書採択審議会 審議会資料（音楽・器楽）

審議材料

- (1) 検定済み教科用図書（2者）
- (2) 選定委員長の報告及び質疑応答
- (3) 選定資料（選定委員会作成）
- (4) 調査委員会資料（調査委員会作成）
- (5) 校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定委員長の説明。選定を進めていく上で、次の3点を共通理解。
 - ・『第4次長崎市教育振興基本計画』に基づく長崎市の方針
 - ・長崎市でここ数年、教科書会社の変更がされていないことによる、現状維持バイアスを意識して慎重に選定。
 - ・「音楽活動の楽しさ」「他者との協働」「生活や社会における音や音楽、我が国や郷土の伝統音楽」を意識した教科独自観点。
- ② 選定委員長への質疑。
- ③ 選定委員長退出後、長崎市の学力向上に資するのはどの教科書か、という視点を中心に審議。
- ④ 審議会として、教育芸術を第1位、教育出版を第2位とすることを決定。

判断根拠

- ① 「一人1台端末を用いたICT機器の活用」という観点から、QRコードで自発的に情報を探したり、創作ツールで作曲したり、曲名から気になった音源を探してメロディを口ずさむことができるよう工夫されている。
- ② 全ての生徒にとって使いやすい教科書という観点から、触ってみたい、開いてみたいと思える表紙である、1ページの内容が焦点化されていて情報をつかみやすい、音楽の見方・考え方のひとつである諸要素と楽曲の結びつきを把握しやすいなどの工夫がなされている。
- ③ 音楽文化の継承や発展につなげるために、学習する内容と社会や身近な生活が結びつけやすい教科書である。
- 以上の3点を主な判断根拠とした。

審議結果

推薦順位 1位	推薦順位 2位
教育芸術	教育出版
理 由	理 由
○音楽一般と同様で、挿絵などを含めて協働を促す構成とになっている。 ○QRコード、創作ツール、ワークシートがとても充実している。 ○他者と協働を促す人物の挿絵が多く、会話しているような挿絵になっていることで、生徒が思いや意図を深めていきながら、演奏ができるように工夫している。	○巻末部に、コードネームの一覧としてギターのダイアグラムや鍵盤などの図表に加え、写真も掲載されている ○教育芸術社と比較すると、QRコードの少なさが感じられる。また、音楽の諸要素と楽曲の結びつきについて触れられていない。

教科書採択審議会 審議会資料（ 美術 ）

審議材料

- (1) 検定済み教科用図書（3者）
- (2) 選定委員長の報告及び質疑応答
- (3) 選定資料（選定委員会作成）
- (4) 調査委員会資料（調査委員会作成）
- (5) 校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定委員長より、選定資料①②を基にした選定結果の説明。各観点の評価の根拠となる点を、具体的に教科書のページを示しながら比較した。
- ② 経験が浅い教員でも指導しやすい点の具体や選定委員会と校長・教職員へのアンケート集計結果の第1・2位の順位が異なる点について質疑および審議を行った。
- ③ 審議会委員により観点を総合的に判断して、推薦順位は光村図書を第1位、日本文教出版を第2位とすることに決定した。

判断根拠

- ① 身近な教材の取扱について、光村図書はキッズゲルニカの作品や波佐見焼、日本文教出版は大村市のPR動画を紹介し、長崎市に馴染みのある作品を掲載している。
- ② 光村図書はQRコードを用いて生徒作品を多く掲載し、日本文教出版は表現のヒントを明記するなど、発想・構想の手立てが取られている。
- ③ 光村図書は生徒の言葉を吹き出しにより提示し、開隆堂は表紙にエンボス加工が施され、協働的な学びや学習意欲を高める工夫がある。
- ④ 学びの流れが明確であり、注目させたい作品への指示がしやすい。
- ⑤ 教職員アンケートの結果は、現在使用している日本文教出版に慣れていることが理由ではないかと考えられるが、観点に沿って審議を行った結果をもとに判断した。

審議結果

推薦順位 1位	推薦順位 2位
光村図書	日本文教出版
理 由	理 由
○選定資料①の「☆」評価が多いことの妥当性が認められる。 ○選定資料①の観点項目1・2・3ともに「☆」または「◎」評価が多くあり、豊かな人間性、確かな学力の育成を十分に図ることができる内容となっている。 ○各ページの目標、QRコード及び鑑賞と表現活動等のレイアウトが固定されており、生徒や経験の浅い教員にとって学びやすく、指導しやすい構成となっている。 ○QRコードを読み込んで見る作品も含めて、生徒作品数が多く、発想・構想が広がる内容となっている。	○校長・教職員アンケートにおいて光村図書について評価が高い。 ○選定資料①の観点項目1・2・3ともに「☆」または「◎」の評価があり、その数も2番目に多い。

教科書採択審議会 審議会資料（ 技術 ）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（３者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 検定済教科書（３者）について、選定委員会の評価の根拠を主に以下の視点で具体例を示しながら説明。
「技術の見方・考え方を働かせた学習活動ができるか」、「生徒目線での使いやすさ・見やすさ、内容の理解のしやすさ等についてどのような工夫や配慮がなされているか」、「デジタルコンテンツの内容や使いやすさ」等について。
- ② 教職員アンケートでは現在使用されている東京書籍が一番評価されているが、それ以上に開隆堂が評価される内容の妥当性について質疑および審議を行った。
- ③ 審議材料および以上の審議を踏まえ、「開隆堂出版」を推薦順位の上位とした。

判断根拠

- ① 「技術の見方・考え方を働かせ、技術に関する実践的・体験的な学習活動を行う」ための工夫や配慮がなされている。
- ② 「技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する」ための工夫や配慮がなされている。
- ③ 「教科書としての基本的機能である、学習効果や使いやすさ・見やすさ、内容の理解のしやすさ等」についての工夫や配慮がなされている。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
開隆堂出版	東京書籍
理 由	理 由
○技術の見方・考え方を働かせ、学習が進めやすい構成になっている。 ○基礎的・基本的な内容の説明が簡潔で、学習の流れに沿ったページ構成となっており、生徒が見通しを持って主体的に取り組みやすくなっている。また、免許外の教員にもわかりやすく指導しやすい構成になっている。 ○二次元バーコードを読み込むと、目的のメニューが表示される。学習内容に合わせたワークシートが豊富で、タブレット端末にダウンロードし、書き込み等をして使用できる。	○教職員アンケートで上位評価となっている。 ○身近な題材・教材の数が多い。 ○学習内容に関連させた写真・挿絵・図表の数が豊富で、学習効果が高まる工夫がなされており、資料面で優れている。 ○二次元バーコードを読み込むと、目的のメニューが表示される。各単元末に自己評価シートがり、ダウンロードして使用することができる。

教科書採択審議会 審議会資料（家庭科）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（３者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定委員が重点を置いた「知識・技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「主体的に学習に取り組む態度の育成」「実践的な活動を行える配慮や工夫」「体験的な学習に取り組める配慮」を主な視点として審議。
- ② 共通観点「知識・技能の習得」、「写真、挿絵、図表の学習効果」「主体的に学習に取り組む態度の育成」「ＩＣＴを活用した学習活動の充実」について、３者の特長や違いを審議。
- ③ 審議の結果、推薦順位およびその理由を決定・確認。

判断根拠

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の習得について、「東京書籍」は重要用語がまとめられていて確認問題が充実しているが、「開隆堂出版」は、学習内容ごとに記述式の振り返りが充実し、「自分の考えをまとめる」「学びを記録に残す」作りになっており、評価にも生かしやすい。
- ② 図や表などの資料が「東京書籍」はトピック的に扱われているのに対し、「開隆堂出版」は学習内容と関連づけられて掲載されている。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度の育成のために「東京書籍」はガイダンスによって全領域の自己の生活を振り返る工夫がなされているが、「開隆堂出版」は、各小単元の導入部分の問いによって自分事として課題をとらえさせる工夫がある。
- ④ 個別最適な学びを充実させるため、「東京書籍」は実習例の動画が豊富であり、「開隆堂出版」は生徒目線を意識した動画が掲載されている。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
開隆堂出版	東京書籍
理 由	理 由
○教科書内に自分の思いや考えを書く欄が充実しているため、自己調整能力を養うことができる。 ○学習内容と関連付けられた図や表などの資料が豊富であるため、理解を深めやすい。 ○各小単元の導入部分の問いを活用し、自分事として課題を捉え、主体的な学びを促す工夫がある。 ○現場職員からも高い評価を得ている。	○開隆堂出版の教科書と遜色ない高い質がある。 ○動画コンテンツが豊富であり、生徒一人ひとりの理解度や興味・関心に合わせた個別最適な学びを実現する工夫がある。

教科書採択審議会 審議会資料（保健体育）

審議材料

- (1) 検定済み教科用図書（4者） (2) 選定委員長の報告及び質疑応答 (3) 選定資料（選定委員会作成）
(4) 調査委員会資料（調査委員会作成） (5) 校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 選定委員長から、4者の特長と評価について報告。
- ② 選定委員会で評価が高かった2者（Gakken、大修館書店）を中心に議論。校長・教職員のアンケートでは1者（Gakken）が高評価であった。
- ③ 保健分野の単元題材数、QRコードの内容の比較、言語項目についての質疑。
- ④ 審議材料をふまえ、推薦順位を決定。

判断根拠

- ① 選定委員会と校長・教職員アンケートが一致している。
- ② 学習指導要領の趣旨に則っており、内容が充実している。
- ③ 限られた（定められた）配当時間内で、指導内容が習得できる内容である。
- ④ 計画的で効果的に指導と評価の一体化を図ることができる工夫がある。

審議結果

推薦順位 1位	推薦順位 2位
Gakken	大修館書店
理 由	理 由
○選定委員会では最も評価が高く、校長・教職員のアンケートにおいても優れているという判断が多かった。 ○学習の流れがわかりやすく、積極的な活動や協働的で対話的な学びを促す工夫が多い。 ○環境について長崎市に関連する写真や記事などを掲載し、身近な課題としてとらえる教材であった。 ○工夫された書体で、見やすく、仕切りなどが少ないレイアウトで紙質にもこだわり、ユニバーサルデザインにおいて優位であった。	○校長・教職員のアンケートでも次点であり、現代的な健康課題の内容において優位であった。 ○WEBコンテンツが充実しており、QRコードにドリル型の問題もある等、自主的に学習に取り組む工夫がされている。 ○「ストレスの対処のしかた」では、リラクゼーションの方法として、「体ほぐしの運動」や呼吸法、筋肉をリラックスさせる方法を掲載し、ストレスに適切に対処することができるよう工夫されている。

教科書採択審議会 審議会資料（英語）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（６者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 検定済みの教科書（６者）について、選定委員が重点を置いた（１）「聞く」「話す」「読む」「書く」といった領域をそれぞれ単独ではなく、統合しながら使わせる設定があるか、（２）既習事項が繰り返し活用されるような工夫があるか、（３）即興で伝え合う力を育む活動の工夫があるか、という３つの観点を審議の視点とした。
- ② 審議材料をもとに、上位３者の特長を比較。また、１位の教科書の教職員アンケートの結果や、ほぼ同等の評価となった２位３位の差異等について質疑および審議を行った。
- ③ 審議の結果、第１位を東京書籍、第２位を開隆堂とする。

判断根拠

- ① 選定資料の評価を見ると、東京書籍が「☆」の数が多い。次に、開隆堂と三省堂の「☆」の数は同じで甲乙つけ難い結果であったが、選定委員が重点を置いた「自分の考え等を即興的に発信したり、やり取りをしたりすることができる工夫がある」開隆堂を２位とした。
- ② 教職員アンケートでは、いずれも東京書籍が上位評価で意見が一致している。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
東京書籍	開隆堂
理 由	理 由
○選定資料の「☆」の評価が多いことの妥当性が認められる。 ○教職員アンケートでは、いずれも上位評価で意見が一致している。 ○ポスターセッションやディスカッション等、生徒の発達段階に応じた活動を系統づけて設定しており、またその活動が円滑に進むような細やかな配慮が全体を通して見受けられる。 ○「聞く」「話す」「読む」「書く」という領域を組み合わせながら、テーマに沿って学習できるよう工夫されている。	○英語を用いた表現活動が円滑に行えるような手立て・アイデアが具体的に示されている。 ○自分の考え等を即興的に発信したり、やり取りをしたりすることができる工夫があるため、長崎市の課題である「表現力」を育む上で、取り組みやすい内容構成となっている。 ○複数単元のまとめの学習として、異なる領域を統合させる活動を意図的に仕組んでいる。

教科書採択審議会 審議会資料（特別の教科 道徳）

審議材料

- （１）検定済み教科用図書（７者） （２）選定委員長の報告及び質疑応答 （３）選定資料（選定委員会作成）
（４）調査委員会資料（調査委員会作成） （５）校長・教職員・市民の意見集約

審議経過

- ① 検定済み教科用図書（以下、教科書）の７者について、「いじめ問題や情報社会の進展による情報モラルへの対応」、「平和や人権といった今日的な課題及び国際社会への視野の拡張などの題材」、学習指導要領の目標の達成及び実際の授業における生徒及び教師の使用法、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の工夫の各視点での評価について説明、審議を行った。
- ② 教職員のアンケートでは、現在使用されている日本文教出版が一番選択されている。それ以上に優れていると評価された２者について、その妥当性について質疑・審議を行った。
- ③ 選定委員による資料等により、推薦順位を決定した。

判断根拠

- ① いじめ問題や情報モラルの育成、平和や人権といった今日的な課題等への対応が充実している。
- ② 読み物資料だけではなく、ポスターやグラフなど多様な資料が活用できる指導の工夫が見られる。
- ③ 挿絵や文字が見やすい題材は、生徒が場面を想像しやすくなり、効果的な学習活動の展開につながる。

審議結果

推薦順位 １位	推薦順位 ２位
東京書籍	光村図書出版
理 由	理 由
○教科独自観点の☆の数が一番多く、教職員アンケートでも、２位である。 ○いじめや情報モラルでは、各学年複数教材を設定し、深い学びにつながるような工夫がある。 ○教材の後のコラム「Plus」で学習を広げたり、深めたりできる。さらに、グラフやイラストなど豊富な資料があることにより、多面的な学びにつながるようにしている。 ○小学校でも「東京書籍」の道徳教科書を使用しており、発達段階に応じた考え方の変容を見ることができる。 ○全ての教材のデジタル音声があるなど、デジタルコンテンツが豊富で、挿絵や資料を拡大するなど、指導方法を柔軟に工夫することができる。	○思考ツールが多様に提案されており、多面的・多角的に考えることができるように工夫されている。 ○いじめ問題や情報モラルでは、ユニットを設定し、各学年で多面的に学ぶことができるような教材の構成になっている。 ○自ら「問い」を立てて、友達と意見交換をしながら考えを深めるなど、主体的・対話的で深い学びにつながる工夫が見られる。 ○いじめ問題では、教材や「まなびをプラス」における体験的な学びをもとに、多面的に学べる工夫がなされている。